

〈開館 20 周年記念特別展〉

漱石と幾多郎

—ふたりを慕う人々—



和辻哲郎

津田青楓

岩波茂雄

松本文三郎

藤岡作太郎

内田雄太郎

夏目漱石 (45歳)
県立神奈川近代文学館所蔵

2022年 9/28(水) ~ 2023年 3/26(日)

西田幾多郎 (72歳)

※新型コロナウイルスの感染状況により変更となる場合があります。ご来場の前にホームページをご確認ください。

【企画展関連イベント】要申込

講演会

漱石と幾多郎—ふたりを慕う人々—

講師：長島裕子(秀明大学客員教授、日本近代文学)
『漱石の愛した絵はがき』著者に、漱石と幾多郎に共通する人々について詳しくお話いただきます。

[日 時] 11/23 (水・祝) 13:30~15:30

[参加費] 無料



岩波書店所蔵
内田雄太郎 絵はがきより

西田幾多郎
哲学講座⑦

夏目漱石《だらしのない自然》のリアリズム

講師：伊藤 徹(京都工芸繊維大学教授、哲学)
漱石の作品を手がかりに、現代世界のありようについて哲学的に考えます。

[日 時] 12/3 (土) 13:30~15:30

[参加費] 500円(要申込・1ヶ月前から受付開始)
*哲学講座年間受講者は参加費不要です。

石川県
西田幾多郎記念哲学館
Ishikawa NISHIDA KITARO Museum of Philosophy

〒929-1126 石川県かほく市内日角井1

TEL (076) 283-6600 FAX (076) 283-6320

URL <http://www.nishidatetsugakukan.org/>

E-mail nishida-museum@city.kahoku.lg.jp

■facebook でもイベント関連情報を随時更新しています。



観覧時間 ■ 9:00 ~ 17:00 (入室は 16:30 まで)

休館日 ■ 月曜日 (祝日の場合は翌平日)、年末年始、メンテナンス期間

観覧料 ■ 一般 300円 (団体 250円・20名以上) / 高齢者 (65歳以上) 200円

／高校生以下無料 障害者手帳をお持ちの方および介助者 1名無料

交通アクセス

【車利用】北陸自動車道 [金沢東IC]—国道159号線(約20分)

のと里山海道 [白尾IC]—(約5分)

【JR利用】金沢駅—IRいしかわ鉄道線・七尾線(約25分)—宇野駅—

—徒歩(約20分)—哲学館



漱石と幾多郎

〈西田哲学館開館20周年記念特別展〉

—ふたりを慕う人々—

2022年 2023年
9/28(水) ~ 3/26(日)

文豪・夏目漱石(1867 - 1916)と哲学者・西田幾多郎(1870 - 1945)。漱石が三歳年長で、ともに帝国大学文科大学で同時期に学んでいます。ただし、幾多郎は高等学校を中退したため哲学科の「選科生」で、漱石は英文科の本科生でした。同じドイツ語の授業を受けるなどしていたものの、当時の彼らに交流のあとはみえません。その後もふたりに表立った行き来はありませんが、不思議なほど、ふたりを慕う人物には重なるものがあります。哲学者・和辻哲郎や岩波書店創業者の岩波茂雄、画家・津田青楓のような漱石木曜会のメンバーをはじめ、幾多郎と青春時代を過ごした金沢の仲間達にも、のちに漱石と同僚になり親しくなる人物が多くいます。ともに参禅経験者で甘党、常にお洒落に気を遣う漱石と、身なりに無頓着な幾多郎。似たところも違うところもある漱石と幾多郎ですが、ふたりの周りには常に人が集まってきました。漱石と幾多郎の人間的魅力に惹かれ、ふたりと交流した、共通する人々を紹介します。

【祝!開館20周年記念事業】

◆喫茶テオリアにて

復活!人気メニュー「北条先生の熱中ようかん」

囲碁に熱中する西田幾多郎の恩師・北条時敬のエピソードにちなんだ、水ようかん。2018年企画展での人気メニューがこの期間限定で復活します。甘党だった夏目漱石も大喜び?!

【期 間】9/28(水) ~ 2023年 3/26(日)

【料 金】350円

◆新オリジナルグッズ

「哲学者ふせん」発売中!

論文などで繰り返される西田幾多郎の書き癖を、西田の直筆文字で再現しました。この付箋を使えば、あなたのメッセージも西田独特の文体に!?

【仕 様】「であるのである」「でなければならない」

2種×50枚セット・250円(税込)

【主な展示内容】

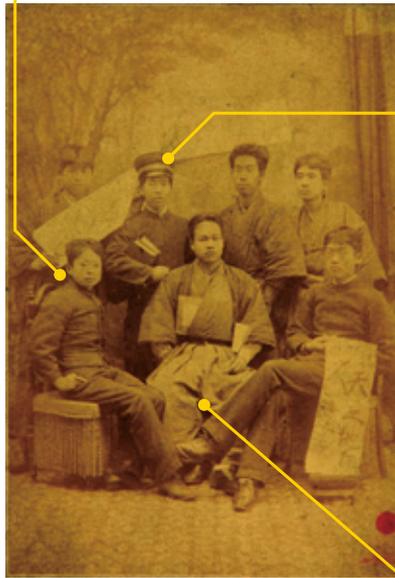
■夏目漱石宛の絵はがき(岩波書店所蔵)



●藤岡作太郎(国文学者)より
明治41(1908)年
6月30日



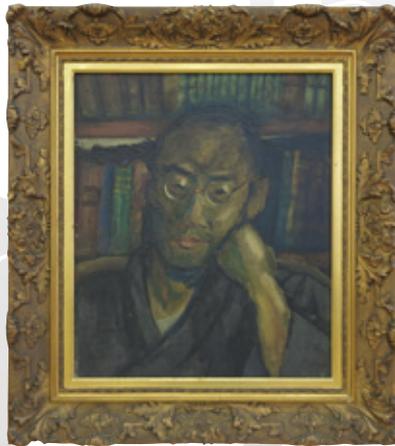
●松本文三郎(印度哲学)より
明治41(1908)年1月26日



明治憲法発布の日集合写真
明治22(1889)年2月11日、幾多郎18歳
幾多郎四高学生時代に仲間と撮った集合写真。後列右より二人目が幾多郎、その左隣が松本文三郎、前列左より藤岡作太郎、内田雄太郎。



●内田雄太郎(教育者)より
明治38(1905)年
11月14日



津田青楓が描いた
西田幾多郎肖像画 年代不明



津田青楓(画家)より
大正2(1913)年
9月18日

